

Title	地方貿易統計の問題 - F.Soltauの所論の紹介 -
Author(s)	有田, 正三
Citation	経済論叢 (1943), 56(5): 518-532
Issue Date	1943-05
URL	http://dx.doi.org/10.14989/132005
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第卷六十五第

月五年八十和昭

論叢

利子に於ける勢力……………

文學博士 高田保馬

資本形成過程の分析と貨幣需要……………

經濟學士 中谷實

支那私幣考……………

經濟學士 穗積文雄

ヒックスの資本理論……………

經濟學士 青山秀夫

研究

地方貿易統計の問題……………

經濟學士 有田正三

說苑

朝鮮經濟の近代化に就て……………

經濟學士 堀江保藏

附錄

彙報

研 究

地方貿易統計の問題

—F. Soltau の所論の紹介—

有 田 正 三

貿易統計が通商政策及び關稅政策の樹立、運營のために重要な意義を有することは茲に改めて説くまでもない。又、私經營の部面に於てもその果し來つた役割は極めて大なるものがあり、今後その重要性は毫も減ずることがないであらう。このことは多くの諸學者の認める所で、貿易統計今日の發展は主としてこれら二つの部面に推進力をもつと云つても決して偶然のことではないのである。所が近時國土計畫の重要性が強調され、國內工業の空間的分布の檢討、空間的配置編成に國家的・國民的關心が昂揚するに伴つて、貿易統計にも新しい課題が云々される様になつた。地方貿易統計 (regionale Aussehandelsstatistik) の問題は、その最も注目すべき問題の一つであらう。この問題が學界及び實際界に於てとり上げられたのは、つい數年以來に於ける獨逸のことであるが、既に彼の國に於ては、この問題に對して學問的寄與をなせる學者、實際家の數も一二に止らない。R. Wagenführ

1) W. v. Loefen, H. Grimm, F.W.R. Zimmermann, C. v. Tyszka, R. Meerwart, W. Grävell の所説參照。

の如きは國土計畫とは關係なしにこの問題を取扱つた古典的な範例に屬するものであるが、いまこれを除外して、専らこの數年の間に、特に國土計畫との關係の下に地方貿易統計の問題を取扱つた學者並びに實際家の名を挙げると、W. Gravel, Möckel, H. Herker, F. Soltau はそのうちの特に著名なる者と云ふことが出來よう(註二)。

これらの諸家に依つて地方貿易統計の問題として取上げられてゐる所は、内容的に見て多少の相違はあるが、大體に於て、

(1) 輸出及び輸入の國內的地域別區分、特に輸出の仕出地域別區分、

(2) 個々の國內的地域の貿易への依存度、特に當該地域の工業に於ける輸出の意義の測定、

以上の二つである。さて、この場合、輸出に重點が置かれ、また個々の國內的地域の工業に於ける輸出の意義の測定——工業輸出率の算出——が主たる關心事とされてゐることは、吾々の特に留意しなければならぬ所であらう(註三)。

今日の貿易統計に於ける分類は、一般に、地域別には、輸出〔輸出數量及び價額〕が仕向地域別に、輸入〔輸入數量及び價額〕が仕出地域別に分類せられ、かゝる意味に於ての相手國別分類は非常に詳細に互るものが多いが、それらの輸出が國內の如何なる地域より由來し、或はそれらの輸入が國內の如何なる地域に歸屬するか——貿易の國內地域別分類を行つてゐるものは非常に少い。たとひあつても種々なる缺陷があつて十分なものは云ひ難い。我が國に於てもさうであるし、獨逸に於ても其他の諸國に於てもこの例に洩れぬ。貿易統計の改編が要求され、或は既存統計諸資料の加工編成に依つて、これが缺を補はんと意圖される所以である。地域的に工業輸出率を算出せんとする努力も、學問的並びに實際部面に於て、より以上の熾烈さで以て再三繰返されては來たが、獨

- 2) R. Wagenführ, Die Bedeutung des Aussenmarktes für die deutsche Industrie Wirtschaft, Sonderheft des Instituts für Konjunkturforschung, Nr. 41, S. 15 ff.
- 3) 茲に云ふ仕向地或は仕出地が生産及び消費の上のものなるか、商業上或は運送上のものなるかに就ては問ふ所がない。

逸の諸學者の報ずる所によれば、彼の國に於ても未だ満足なる結果に到達して居らぬものの如くである。⁴⁾尤も、この問題は、その性質上、ひとり貿易統計だけでなく、更に工業生産統計にも多大なる關係を有する問題で、兩者の整備充實をまたねばならぬだけに一層の困難を伴ふ譯である。

地方貿易統計の問題は、これらの事態を前提して、或は理論的に或は實際的に諸家によつてとり上げられ、まづ Sollau の云々によつて、Zeitschriften der Aussenhandelsstatistik を構成する。

茲にこの小稿の紹介せんとするのは、在ベルリン、Ministerialrat, Dr. Fritz Sollau の „Zeitschriften der Aussenhandelsstatistik“ と題して、一九三八年九月ヴュルツブルグに於て開催された獨逸統計協會 (Deutsche Statistische Gesellschaft) の研究報告會に於ける報告論文で、F. Zahn 編輯の同協會機關誌 Allgemeines Statistisches Archiv, 1938 に收録登載せられたるもの(註1)。論題に云ふ Zeitschriften とは、内容的には、地方貿易統計に關する一聯の問題を指す。論旨、この問題に關説する諸家の所説中最も明快で、問題展開の仕方も極めて體系的である。就中、Grävell, Möckel, Herkel 等の諸先達の成果の核心をつかみ、それを基礎として自らの見解を問題の一層の進展の方向に於て展開してゐる點は注目すべきものと思惟せられる。敢て紹介する所以である。

(註1) W. Grävell, Regionale Ausführstatistik, Deutsche Wirtschaftszeitung, Nr. 49, 1938. Berechnung über die Bedeutung von Ein- u. Ausfuhr, Deutsche Wirtschaftszeitung, 34 Jg. 1937, Nr. 2-3. Möckel, Der sächsische Wirtschaftsraum, Leipzig 1938. H. Herker, Begriff, Berechnung und Bewertung regionale Exportquote, Allg. St. Arch. Bd. 26, 1938. F. Sollau, Zeitschriften der Aussenhandelsstatistik, Allg. St. Arch. Bd. 28.

(註2) 輸出に就き特に地方貿易統計、特に國內地域別區分の要求される理由には、種々なるものが考へられるが、そのうちの二つに次の如きものがある。すなはち、國內地域別分類は輸出入共に獨逸の統計では採用されてゐない故、それに對する要求は輸出入共に共通であるが、輸入に於ては交通貨物統計によつて或る程度までその欠を補ふことが出来る。輸入が輸出に比して

4) W. Grävell, Berechnung über die Bedeutung von Ein- und Ausfuhr, Deutsche Wirtschaftszeitung, 34 Jg. 1938, Nr. 3, S. 84.

品別構成が單純であり且少數の原料品に壓倒的に依存してゐると云ふ事情は、交通貨物統計が價額を表示せずに數量しか表示しなくとも、割合簡單に價額の推を可能ならしめる。之に對して輸出は品別構成が極めて複雑であり、且完製品が大部分であるために、交通貨物統計の利用を殆ど不可能にする。このことは Soltan もまた指摘する所である。

(註三) Soltan のこの論文が獨逸統計協會の上記報告會に提出せられるや、多數の學者實際家が發言し、批評・助言・意見の開陳を行つてゐる。一般的に地方貿易統計整備を要望せるものを除けば、實際的問題であるだけに、後述する——Soltan の第三の問題が特に粗上に上された様である。學界・實際界の關心の所在の一端を示すものと云ひうるであらう。尙發言せるものの中に Zahn, Joh. Müller & Herker, Gravelle の如き地方貿易統計を問題として著名なる者や Bickert (Reichsgruppe Industrie), Geer (Wirtschaftsgruppe Maschinenbau), Jensenberg (Reichsstelle für Raumordnung), Reinhardt (Reichsbank) 等がある。Allg. St. Arch. Bd. 28, S. 179 ff 参照。

II

上記の論文に於て Soltan がとり上げてゐる問題は大きく次の三つの問題に分けることが出来る。

第一の問題は、輸出の地域的區分は如何にすれば可能であるかの検討である。Soltan の云ふ所に依れば、原料の生産より加工を経て輸出されるまでに、輸出品は、種々なる生産部門を通り、種々なる商業部門を介するのみならず、多くの地域を移動する。輸出を全體としてみればまさに「統一的國民經濟の共同的給付」と云ふことが出来るよう。それを如何にして個々の地域的(或は職能的)部分經濟の輸出と見做し得ようか。更に一つの地域の「輸出する所のもの」は、必ずしも其處より「輸出される所のもの」と同一でないし、その地域が輸出のために給付せる勞働は「第三の大きいさ」である。⁵⁾ 何を以て地域的部分經濟の輸出となさんとするか。輸出の地域的區分は、この様な點に大きな困難と誤謬の危険がひそんでゐる様に思はれる。如何にすればかゝる事態は克服し得られるであらうか。輸出の地域的區分は如何にすれば可能であるかの検討が要請される所以である。この問題を Soltan は、

5) F. Soltan, a. a. O., S. 153.

6) F. Soltan, a. a. O., S. 153.

輸出品の全生産並びに流通過程に於て、國內の諸生産並びに流通部門・地域を移動する態様に着眼し、それを要素的形態に分解類型化し、要素的移動形態の綜合組合せから部分經濟に於て可能なる輸出形式とその經濟的意味を規定し、調査の可能性と限界の吟味によつて解決せんとする。

第二の問題は、地方輸出率 (regional Exportquote) の問題である。「輸出はその意義を絶対數からは認識され得ない。生産または賣上と對比されねばならぬ」。之が地方輸出率の問題展開に當つて冒頭された言葉であるが、茲に云ふ、絶対數からは認識され得ぬ輸出の意義とは、Soltau の所説を綜合するに、從來、地方輸出率が表示すべきものとして主として問題にされ來つた、一地域の工業に於ける輸出の意義、所謂 Exportintensität 或は Exportabhängigkeit に局限されないで、より廣いものを内容としてゐる。このことは、Soltau の提示せる比率及びその意味の規定から容易に判斷することが出来るし、問題の提起の仕方を吟味するとき、一層明確となる。Soltau の問題提起の仕方を見るに、他の諸家のそれに比して極めて一般的形式的である。氏は一地域の工業の國外市場への依存度の測定と云ふが如き、限定特定せる實質的問題を前提して、その解決のために必要な方法的問題として地方輸出率の問題をとり上げず、寧ろより一般的・形式的に、比率の上で分子及び分母にとられる數(輸出及び生産又は賣上)の意味の相違によつてその結果たる地方輸出率の意味に種々なる相違が生ずることを示して、一方では輕率無反省な比率の算出を戒めると共に、他方に於てそこに成立し得べき種々なる種類の比率をその形式並びに意味、相互の關聯に於て規定し體系付けんとする。それだけに、地方輸出率として Soltau の概念する所のものは、その意味の上から云へば、種々なるものを含む。そしてそれらの比率の意味の背後に前提された、輸出の意義なる語も著しく多義的であり、且或る意味に於て形式的となり、一地域の工業の海外市場への依存度と云ふ、

限定されてはゐるが極めて明確なる規定から遠ざかるに至る。Soltan の提示せる比率は全部で四個、夫々についての意味並びに效用の規定は後述することとする。⁸⁾

最後に第三の問題として、既存統計資料の加工編成による、輸出の地域別区分及び地方輸出率算出の可能性と限界を問題にし、地方貿易統計整備のための具體的方策に觸れる。問題にする既存資料が獨逸の官廳統計たることは云ふまでもない。特に賣上税統計 (Umsatzsteuerstatistik) と生産統計 (Produktionsstatistik) の兩者が主たる對象となる。地方貿易統計整備の具體的方策としては、貿易統計の改善による方法としまつ獨逸統計局 (st. Reichsanst.) と Reichsgruppe Industrie の協力に依る、生産並びに輸出の統一的調査に依る方法を擧げる。⁹⁾

Soltan のこの論文は以上の三問題を主要論點とする。第一及び第二の問題は理論的問題であり、第三の問題は、第一及び第二の問題を基礎としてその上に展開せらるべき實際的技術的問題である。本稿は理論的問題に重點を置かんとする意圖から特に第一及び第二の問題に就きいさしく内容に立入つた紹介の筆を進めよう。

三

第一の問題は、輸出の地域別区分は如何にすれば可能であるか、の検討であつた。この検討は、既に述べた如く、原料の生産から加工行程を経て製品となり輸出されるまでに、輸出品の示す複雑なる地域的部分經濟間の移動態様の分析に依る要素的移動形態の確定、その綜合組合せから地域的部分經濟に於て可能なる輸出形式の構成とその經濟的意味の規定、調査の可能性と限界の吟味を以て内容とする。その内特に要素的移動形態の確定に重點が置かれてゐるのは、問題全般に對してそれがもつ意義に由因するものと思はれる。

所で、要素的移動形態への分解に關聯して豫め茲に明かにして置かねばならぬのは、輸出の總輸出 (Brutto-

8) Soltan, a. a. O., S. 155-159.
9) Soltan, a. a. O., S. 159-163.

ausfuhr)と純輸出 (Nettoausfuhr) への區分である。¹⁰⁾ 總輸出とは、輸出品の價值總量に於てとらへられた輸出であり、純輸出は部分經濟の添加價值 (Wertschöpfung) に於てとらへられた輸出を云ふ。純輸出に於ては、輸出品の價值 (總輸出) が分解されて、それを創出せる部分經濟に歸屬せしめられる。そして歸屬せしめられた價值量を以て當該部分經濟の純輸出とされる。總輸出と純輸出との區分は、輸出を如何なる量に於てとらへるか云ふ方法的問題にも關聯するが、同時に、Solara に於ては移動主體として要素的移動形態の規定に對して前提的な意味をもたされてゐる。即ち、この兩者を前提してそれぞれの移動を追跡し、移動の要素的形態が檢出されるのである (註二)。

その場合、二つの視角が用意される。¹¹⁾

一つは生産者がその生産物を輸出するか、商人の仲介を経るか、の區別——輸出行爲者が生産者であるか、商人であるか、の區別である。いま一つの視角は、一つの部分經濟の生産物がその部分經濟に所屬せる生産者或は商人の手によつて輸出されるか、それとも他の部分經濟に所屬し當該部分經濟に所屬せざる生産者或は商人によつて輸出されるか、に依る區別、換言すれば、生産物を生産せる部分經濟に對する輸出行爲者の所屬から見た區別である。生産者輸出 (direkte Ausfuhr) と商人輸出 (indirekte Ausfuhr) は、上記第一の視角に照應する。第二の視角に照應する區別は、直接輸出 (Unmittelbare Ausfuhr)・間接輸出 (mittelbare Ausfuhr) 及び部外輸出 (fremde Ausfuhr) の別である。直接輸出とは、一つの部分經濟の生産物がその部分經濟の生産者或は商人によつて輸出される場合 (即ち一つの部分經濟が他の部分經濟を介せずになす輸出) を云ひ、他の部分經濟の生産者或は商人を介するのが上記の間接輸出である。部外輸出は、一つの部分經濟の生産者或は商人が他の部分經濟の生産物を仲介輸出するを云ふ。仲介する側から云へば部外輸出、仲介される側から云へば間接輸出となる譯で、兩者は内容的に同一の

10) Brutto-, Nettoausfuhr の區分に就ては、W. Grävell の前掲諸論文參照。

11) この二つの視角は W. Grävell に於て採用されてゐる。
Berechnung über die Bedeutung von Ein- und Ausfuhr, Deutsche Wirtsch.-zeitung, 34 Jg. Nr. 3, S. 83.

ものを相異つた面からとらへたものと云ふことが出来る。

要素的移動形態は、以上の二組の視角を組合せて總輸出及び純輸出につき規定される譯であるが、Soltau はそれを整理し秩序づけて一つの表式を導き出してゐる。『部分經濟の輸出の概念的區分の表式』(Schema für die begriffliche Aufteilung der Ausfuhr einer Teilwirtschaft)、即ち之である。この表式は、地域的部分經濟に對するものを第一部とし、第二部に職能的部分經濟に對するものを收めてゐるが、茲では、第一部、即ち、地域的部分經濟に對する表式のみをかゝける。

地域的部分經濟の輸出の概念的區分表¹²⁾

總輸出		直接輸出		間接輸出		部外輸出	
生産者輸出	商人輸出	當該地域の生産者自身による輸出	當該地域の生産者が當該地域の商人を介してなす輸出	當該地域の生産者が他の地域の商人を介してなす輸出	當該地域の商人が他の地域の生産者の生産物を仲介してなす輸出	當該地域の商人に於ける添加價値の當該地域の(終局的)生産者を通じ	當該地域の商人に於ける添加價値の當該地域の(終局的)生産者を通じ
純輸出	生産者輸出	當該地域の商人に於ける添加價値の當該地域の商人を介しての輸出	當該地域の生産者による輸出	當該地域における添加價値の他の地域の(終局的)生産者を通じ	當該地域における添加價値の他の地域の商人を介しての輸出	他地域に於ける添加價値の當該地域の商人による輸出	他地域に於ける添加價値の當該地域の商人による輸出
商人輸出	商人輸出						

右の表式に依ると、總輸出に於ては四個、純輸出に於ては六個、都合一〇個の要素的移動形態が存在することとなる。これらの要素的諸形態は、上述の如く、輸出主體の相異(商人であるか生産者であるかと云ふ點が一つ、いまいつは生産物生産の部分經濟への所屬關係による相異)に着眼することによつて可能となつたもので、輸送上の關係は全

12) Soltau, a. a. O., S. 154.

く考慮に入れられてゐない。従つて一つの地域的部分經濟の生産物が海港なきために他の部分經濟の海港を経て輸出されるが如きこと——極めて普遍的な事實である——があつても、その海港所屬の商人を介せざる場合には、間接輸出とならぬ（海港所在の生産者による加工を受けることなき場合もまた同様）。かゝる場合、他の部分經濟の介在は純然たる輸送上の問題にすぎないのである。間接輸出たるためには、一つの部分經濟と他の部分經濟との間に經濟的取引的關係が存在することを必要とする。尤も商人の仲介と云ふが如きは、概念的に極めて曖昧な規定で具體的實際的にはより嚴密な一義的規定を必要とすることは明かであらう。

さて Soltau は、上記の要素的移動形態を綜合組合せて、次の如き三つの輸出形式を組立てる。即ち、

(イ) 直接總輸出と間接總輸出の和。これは輸出品が原料生産からいくつかの加工行程を経て製品となるま

でに經由する一聯の生産者中、最後位に位する生産者（終局生産者）が生産加工せる輸出品の價額を示す。但し終局生産者、更に部分經濟の當該輸出品に對する添加價値の大小は、この價額からは知ることが出来ぬ。尙他の部分經濟の加工を経て始めて輸出される物は、その部分經濟の添加價値が如何に大きくとも、直接總輸出にも間接總輸出にも含まれぬ故に、こゝには計上されぬ。

(ロ) 直接總輸出と部外總輸出の和。一つの地域の生産者及び商人が外國へ輸出せる商品價額、即ち取引價額を示す。但し部分經濟の添加價値は之に於ても示されぬ。

(ハ) 直接純輸出と間接純輸出の和。一つの地域に於て輸出のために給付された添加價値の總量を示す。

以上の三形式を別の言葉で表せば——Soltau に依ると——(イ)は一地域の「輸出する所のもの」に、(ロ)はその地域から「輸出される所のもの」に、(ハ)はその地域が輸出のためになせる勞働給付に該當する(量)だ。これらの三形態

中、理論的に云つて今日最も理想的と考へられてゐるのは、(ハ)である。蓋し、それは部分經濟に於て輸出のために給付せられたる勞働時間を純粹に示し、それ以外の何者をも餘分に包含することがないからである。しかしその調査には實際的並びに理論的に次の如き難點がある。第一に、純粹完全に一地域の添加價值を明かにせんとすれば、原料だけでなく、凡ゆる生産設備についても、その價值を創出せる地域の確定が必要である。しかしその様なことは實際的には不可能である。加ふるに、各生産要素に添加價值の總量を分割歸屬せしめるが如きは、生産の有機的一的機能から云つて、理論的にも異議を免れぬ。さればかゝる算出方法を捨て、生産の結果に於て添加價值の總量をとらへるのが至當である。——これがSolauの所説の要點である。要するに、一つの制限の下に「直接」及び間接純輸出の和とがとらるべきことを主張してゐる譯である。

(註一) 總輸出及び純輸出の區別が問題になるは、地域的部分經濟の輸出のみでない。全國或は個別的諸産業(工業部門の輸出に就て、それを區分せんとする試みは、はるかに古い歴史をもつてゐる。全國の輸出についてそれを區別せんとするとき、問題になるのは輸出品に含まれたる輸入原料品の價額控除である。更に、全國工業が主體とされる場合には、之に加ふるに、非工業的原料(農礦水産物)の價額控除が問題になる。いづれにせよ、全國或は全國工業の添加價值の純粹抽出が目的で、かゝる意味に於て、地域的部分經濟に於けると異なる所がない。後者につき、總輸出及び純輸出の區別を問題にする場合、輸入及び非工業的(國內産)原料の控除が、他の部分經濟の添加價值の控除と共に問題にされねばならぬことは云ふまでもない。

(註二) 本邦貿易統計に於ける港別輸出額は、之を内容的に見ると、その港灣所轄税關官署の管區の總輸出の外に、管區外の生産者又は商人の手になる輸出(通關・船積がその港灣に於てなされるとは云へ、その管區内の生産者又は商人の加工及び仲介が全然ない輸出)を含む。關東州貿易統計に於ける輸出(海路輸出)もまた同様で、關東州の總輸出(州内にて生産又は加工された物器及び州内商人の仲介せる物品)の外に、尙關東州内の生産者又は商人とは全然關係なきもの(滿洲國——従つて州外——の生産者又は商人の手による輸出)が包含されてゐる。この點は留意されねばならぬ。*

四

第二の問題は地方輸出率の問題であつた。問題の所在と内容に就ては既に述べた故、茲ではSoltauの提示せる四つの比率とその意味の規定を紹介するに止めよう。

Soltau の提示せる四つの比率は次の如くであるが、分母の總生産 (Bruttoerzeugung, Bruttoproduktion)、純生産 (Nettoerzeugung, Nettoproduktion) の概念につき豫め若干の説明を附加する。總生産では、生産物がその價值總量に於てとらへられる。生産が段階的に多くの經營に分割されて營まれる場合、一つの經營の生産物價額はその經營の添加價值の外に、前段階を擔當する諸經營の添加價值をも含む。それ故に、これらの諸經營の生産物價額の總和は必然的に二重計算を含むことになる。それを避けるために經營の添加價值を摘出したのが純生産である。¹⁴⁾ 總生産と純生産の區別は總輸出と純輸出の區別に著しい類似を示す。但し總生産が二重計算を含むに對し、總輸出は全くその様なことがない。

Soltau の提示せる四比率¹⁵⁾

(イ)	總輸出 總生産	(ロ)	純輸出 純生産
(ハ)	總輸出 純生産	(ニ)	総同生産者の純輸出 純生産

(イ)は總輸出率 (Bruttoexportquote)、¹⁶⁾ (ロ)は純輸出率 (Nettoexportquote) と呼ばれる。個々の比率のもつ意味として Soltau の説く所を見るに、次の如くである。

(イ)の總輸出率 (總輸出 / 總生産) は、部分經濟の工業生産に對する輸出の意義、即ち工業の國外市場への依存度の測定に廣く用ひられてゐるが、多くの學者及び實際家によつて指摘されてゐる如く、種々なる缺陷を包藏する。

14) Brutto-, Nettoerzeugungの區別に就ては R. Wagenführ, a. a. O., S. 9 ff. 参照。

15) Soltau, a. a. O., S. 156.

16) Soltau, a. a. O., S. 157.

い、¹⁷⁾ 缺陷の主たるものとして諸家の指摘する所を要約するに、大體次の諸點を擧げることが出來よう。

總生産が二重計算を含むこと（既述）、

（ロ）總生産並びに總輸出の價額の基礎を構成する生産物價格と輸出品價格とが性質上別個のもので、前者は國內價格として成立するに對して、後者は對外價格として成立し、兩者が必ずしも一致せざること、

（ハ）總輸出價額は輸出に關聯して生じた商業利潤・運賃・保險料・其他の諸掛を含むこと、

（ニ）總生産及び總輸出は何れも部分經濟の添加價値を表示せざること、

（ホ）Solau もまたこれらの缺陷に着眼して總輸出率を排し、それに代るものとして——（ロ）の純輸出率（純輸出／純生産）の採用を勸奨する。曰く、この比率の方が現實事態により適合してゐると。

（ハ）、即ち、總輸出と純生産との比から構成される比率を、Solau は、一つの部分經濟が他の部分經濟の生産物を加工することによつて輸出し得るものとなし得る能力を示すものと考へる。従つて總輸出率或は純輸出率とその意味は著しく相異なるし、その效用もまた別の處にあると見なければならぬ。かゝる意味に於て、輸出率を工業生産の輸出に對する依存度の測定手段としてのみとり上げんとする Grävell が、この比率（即ち（ホ）を地方輸出率の中に包含せる Solau の所説に反對したのは、たしかに無理からぬことである。¹⁸⁾ それはそれとしてとも角、この比率が地方輸出率に加へられることによつて、地方輸出率乃至輸出率の概念が著しく擴張せることは、吾々の十分注視しなければならぬ所であらう。

云ふ迄もなくこの比率は、その値（經驗値）が一〇〇（%）以上に達することも可能である。かゝる場合その意味する所は、部分經濟がその生産的活動を以てしては創出し得ざる、多額の生産物を加工して海外市場に適應せし

17) Wagenführ, a. a. O., S. 8-10. 尙 Grävell, Herker, の前掲書, Soltau, a. a. O., S. 156-158.
18) W. Grävell, Allg. Stat. Arch. Bd. 28, S. 202 (Verhandlungen der Deutschen Statistischen Gesellschaft in Würzburg).

める能力を有する、と云ふことになる。比率の値が一〇〇なる場合、更に一〇〇以下なる場合についても、夫々同様の仕方でその意味を規定し得る筈である。¹⁹⁾しかしGEBEが云ふごとく果してこの比率はかゝるものを語り且示すことが出来るであらうか。總輸出と純生産とを對比することが如何なる論據に於て、一つの部分經濟が他の部分經濟の生産物を加工することによつて輸出し得るものとなし得る能力の表示に到達し得るか、いま分母の純生産を純輸出に置き換へることによつて成立せる比率——總輸出と純輸出の比——の方がその意圖により適合してゐるのではないか、等の疑問を提出せざるを得ない。吾々はSoltauの云ふ輕卒無反省的な比率算出の弊を引合に出す譯ではないが、總輸出と純生産を對比することの意味にいま一度吟味検討を加へることを必要とする。

比率(=)、終局生産者の純輸出と部分經濟の純生産の比は、比率(ハ)とは逆にその値が常に一〇〇以下であり、純輸出率よりもその値が小さいであらう。輸出品が原料生産より加工を経て製品となるまでに通過する幾多の經營のうち、最後の經營の生産的活動が、部分經濟の全生産活動に於て有する意義を明かにする。純輸出率とこの比率の數値上の差は、終局的生産者の擔當する段階以前の諸經營の生産的活動を示す。——Soltauは比率(=)がかくの如き意味を有するものとなし、それが總輸出率(イ)、純輸出率(ロ)に對して補充的意義を擔ふこと、而して實際にこの比率を算出するときその數値は恐らく小さいものであらうと云ふこと、以上の二點を附言してゐる。

以上Soltauの説く所に従つて、四つの比率の意味を問題にしたが、既に明かなる如く、(イ)ロ及び(ハ)の三比率と(ハ)の比率とは、その意味が著しく相異なる。(イ)ロ及び(ハ)の比率は、いづれも部分經濟に於ける生産に對する輸出の意義を測らうとするものであるが、(ハ)は一つの部分經濟の生産が他の部分經濟の生産物の輸出に對してもつ意義に着眼せるものである。かくの如き異質のものを地方輸出率なる名稱の下に一括することには異論があるで

19) Möckel, Der Sachsische Wirtschaftsraum, Soltan, a. a. O., S. 159.

あらうが、Geer の指摘する如く、²⁰⁾ 地方輸出率として専ら總輸出率及び純輸出率に視野を局限してゐた從來の論者に對して視野を擴大せしめる動機ともなり得る點に吾々の留意しなければならぬものが存在する。しかし同時にかくの如き視野の擴大が、地方輸出率の概念に大きな變化を生ぜしめるに至つてゐることを忘れてはならないであらう。總輸出率及び純輸出率に問題を局限せる際、概念されてゐたのは、一つの部分經濟（一つの地域）の生産（工業）の輸出への依存度の測定手段としての地方輸出率であつた。しかし Geer に於ては、少くともそれが提示せる比率の意味の規定からすれば、もはや右の如き局限されたものでなく、より廣くより内容的な概念である様に思はれる。しからばそれは如何に定義せらるべきか。吾々は地方輸出率の概念規定を問はねばならぬ。だが Solau のこの論文は地方輸出率の概念につき必ずしも明確一義的な規定を與へてゐない。むしろ規定そのものの上では、從來の、かの局限された概念をそのまゝ踏襲してゐるが如き處なしとしない。

地方輸出率の概念の明確な規定の要求は、單なる定義のための定義の要求でない。その明確な規定が與へられると、それを實現せる地方輸出率の具體的形態が明かになり、また算出の方法も自ら明確になるからである。何が故に上記の如き四つの比率が擧げられねばならぬか、またこれらの比率は相互に如何なる關係を有するか、これらの比率で以て十分であるか否か、これらの問題も自ら解決の途を見出すであらう。Solau は四つの比率を提示した。而してその意味を明かにした。しかし、何が故にこれらの比率が擧げられねばならぬか、と云ふ點になるとその所説は明確でない様に思はれる。地方輸出率の概念の明確な規定、それを前提しての所論の展開——これらの缺如と深い關係がないであらうか。

五

以上、理論的問題に重點を置いて Solan の所説の大綱を紹介した。既に指摘した如く Solan の所説がすべてその創意にかゝるものでないことは云ふまでもなす。Gravelly, Möckel, Herker 等はその直接の先行者と云ふことが出来る。しかしそれらの諸先行者の所説を體系的に整理關聯づけ、問題の所在と展開の方向を具體的に示してゐる點は、たとひその所説が不十分なる點、或は更に吟味すべき點を多く藏してゐようと、吾々の十分評價すべきものをもつと云はねばならないであらう。特に、本稿が Solan の第一論點として取上げた輸出の地域別區分の問題に關聯して獲得せる成果——地域的部分經濟の概念的區分の表式の如き、第二の論點としての地方輸出率の問題に關聯して、總輸出率及び純輸出率への限定よりの問題の解放の如き、特に注目すべき點であらう。

しかし他方に於て Solan にして尙吟味すべき、或は反省すべきいくつかの問題を残してゐること、包藏してゐることも承認されねばならないであらう。吾々は既に若干の問題についてこれを指摘した故、こゝでは繰返さないが、次の問題の如き、今改めて検討せらるべきものでないかと思はれる。それは地方輸出率の問題に屬すが、一言にして要約すれば、總輸出率の效用に就てである。たしかに Solan の云ふごとく、また多くの諸家も指摘するごとく、總輸出率に種々なる缺陷があることは事實であり——この缺陷に就ては既述——、之に代ふるに純輸出率が算出せらるべきことは明かであるが、しかし後者の算出には、實際的に種々なる困難が伴ひ、今日の狀態では殆ど不可能なことは否定することが出来る。従つて實際に利用し得べきものは總輸出率であると云はねばならぬ。Solan と雖も十分に之を認めるとすれば、總輸出率につき一層の吟味検討を行つて、如何なる條件の下に如何に利用すれば、それがもつ缺陷より遠ざかりたる利用をなし得るや、——かゝる意味に於ての總輸出率の效用の再検討並びに利用限界の規定こそ、寧ろ重要性を帯びる問題であると云ひ得よう。